

令和元年5月13日

令和元年度第2回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和元年度第2回教育委員会定例会会議録

日時 令和元年5月13日（月）
14時00分～15時00分

場所 教育委員会室

出席者

東 條 教 育 長	森	教 育 次 長	長
島 津 委 員	前 田	務 校 職 務 員	長
今 村 委 員	玉 利	務 校 職 務 員	長
原 之 園 委 員	橘 木	務 校 職 務 員	長
石 丸 委 員	池 田	務 校 職 務 員	長
堀 江 委 員	山 本	務 校 職 務 員	長
	福 中	務 校 職 務 員	長
	西 村	務 校 職 務 員	長
	久 木	務 校 職 務 員	長
	岩 上	務 校 職 務 員	長
	石 田	務 校 職 務 員	長
	岩 下	務 校 職 務 員	長
	紺 宮	務 校 職 務 員	長
	野 村	務 校 職 務 員	長
	黒 木	務 校 職 務 員	長
	荒 田	務 校 職 務 員	長
	今 村	務 校 職 務 員	長
	中 島	務 校 職 務 員	長
	堂 園	務 校 職 務 員	長

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 鹿児島県教育委員会文書規程の一部を改正する訓令の制定について</p>	<p>工業標準化法の一部改正に伴い、鹿児島県教育委員会文書規程の一部を改正する訓令を定めようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第2号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について</p>	<p>鹿児島県立図書館協議会の委員2人の辞任に伴い、その後任を任命しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第2号については、非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 平成31年度第1回教育委員会定例会の会議録の承認

承 認

4 議案

議案第1号 鹿児島県教育委員会文書規程の一部を改正する訓令の制定について

(総務福利課長) 工業標準化法の一部改正に伴い、鹿児島県教育委員会文書規程の一部を改正する訓令を定めるものである。

(教育長) 異議がないので、議案第1号は原案のとおり議決する。

5 その他

(1) 令和2年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の概要について

(教職員課長) 令和2年度鹿児島県公立学校教員等採用選考試験の概要について説明

(島津委員) ここ数年の傾向を見ると、募集人員が増加しているが、それと同時に受験者数が減少して、結果的に倍率が下がっている。これまで10倍くらいだったのが、昨年が全体で約6倍くらいである。そのような状況で、教員としての質の確保は重要な課題であり、採用後の研修等を今まで以上に充実させる必要があるのではないか。

小学校では特別支援学級が増えている関係で、教員数も増えているということだが、小学校の教員として採用する場合に特別な技能等を求めるのか。または、一般の教員とほとんど同じと考えてよいものか。

(教職員課長) 1点目の研修の充実については、採用人数がこれだけ増えるという計画なので、対応できるように関係各課と相談しながら進めてまいりたい。2点目の小学校採用における特別支援の関係については、採用自体は求めているものが小学校免許であり、選考においては、1次試験で教科全般にわたる力を見る。2次試験で人物的なところを見るというもので、特別支援教育に特化して何か見るということとはしていない。しかし、2次試験の面接の中で、例えば小学校免許以外に特別支援免許を保有している者についてはその意思を確認している。

(島津委員) 実質的には特別支援という部分で活躍してもらおう趣旨があるように思われる。特別支援学級が増えているという傾向で教員数を増やさざるを得ないのではないか。そうだとすれば、特別な技能等は必要ないのか。

(教職員課長) 特別支援学級担任という採用の形ではない。しかし、特別支援の教員は需要が高いということは当然受験生に向けても話はしている。

(島津委員) 受験生にはそのような認識は持ってもらう必要がある。

(原之園委員) 現職教員の特別選考の新設についてである。3年以上他県で経験した者が、本県を受ける場合には1次試験の一部を免除するということだが、受験者数の見込みはどうか。また、教員採用試験が前倒しになっていることについて、九州管内は同じ日に試験を行っているので、本県だけではないと思うが、そこに対しての動きや見込みはいかがか。

(教職員課長) 1点目の現職教員の特別選考の受験者数の見込みについては、各都道府県に照会をかけてはいないので、実際、どれくらい試験を受けてくれるかということとは分からない。ただ、これまでの既存の制度で申し上げるならば、優秀教員の特別選考というものをここ数年やっている。この場合は、現職で、かつ文科省なり、都道府県教委から優秀教職員表彰を受けた者という縛りでやっている。昨年度はこれで受験してきた者もいるので、その部分を除いて単純に現職教員とした場合に、できるだけ多く受けてもらえればと思っている。また、採用試験日程の前倒しの件であるが、日程については九州各県の教育委員会で連携して、統一日を設定しており、今年度は7月14日の日曜日であるが、今後、意見交換をする場で検討ができればと考えている。現在のところは試験日が早まるということは聞いていないし、こちらの方から積極的に何かすることは考えていない。

(2) 国立大隅青少年自然の家と連携した不登校児童生徒支援活動について

(義務教育課長) 国立大隅青少年自然の家と連携した不登校児童生徒支援活動について説明

(島津委員) 不登校傾向の子供たちの居場所や保護者の相談ができるような場所を作るといふ、この取組がうまくいくことを期待しているが、これは県と国のどちらが呼び掛けてこのような取組を始めたのか。また、多くの不登校傾向のある子供たちに参加してもらうためにどのように広報しているのか教えてほしい。

(義務教育課長) 呼び掛けだが、国から指示されているというわけではなく、大隅地区では、不登校の子供たちが頼れる施設がなかなか整備されていない現状があったので、そういった場所を作れないかという

ことで、義務教育課の方で自然の家に相談したところ、賛同していただき、このような取組を実施するに至った。広報については、自然の家だけではなかなか募集が来ないので、教育委員会が各市町村教育委員会や学校に個別に働きかけ、自然の家にもチラシ等で募集をかけてもらうなどした。

(島津委員) 不登校傾向にある子供以外は対象ではないのか。一般の子供は参加できないのか。

(義務教育課長) 原則、不登校傾向の子供を優先して募集をかけ、空きがあれば一般の子供も参加可能である。

(原之園委員) 今回のプログラムは大隅地区が中心だが、薩摩半島の方では青少年研修センター等で、規模は小さいが、不登校傾向の子供たちが集まってキャンプのような体験活動をしていると思うので、ぜひ一緒に広報してもらえればと思う。

(3) 平成31年度公立高等学校入学者選抜について

(高校教育課指導監) 平成31年度公立高等学校入学者選抜について説明

(島津委員) 今年度は平均点が大きく下がっているということが特徴としてあるかと思う。中身的には、新しい指導要領等を勘案した上で、これまでとは違った傾向で、問題を作成している。結果的には、生徒達がそのような問題をあまりクリアできなかったことで、これからの課題が見えてきているのではないか。また、上位点の人数が減っており、360点以上という割合がかなり低いことについて、対策が必要なのではないか。さらに、数学は良かったが、国語や社会、英語の目安点未満の人数の割合が少し増えている。これも課題だと思う。今回の説明は高校教育課としての分析結果であるが、これが小学校・中学校にもフィードバックされないといけない。公立高等学校の入学者選抜における学力検査の得点を出身中学校に共有するというのは良い傾向だと思う。これまでも様々な定着度調査を行っていると思うが、今回の結果も含めて生かしていただきたい。数学の平均点が下がっていたので、私も問題を解いてみたが、結構難しい。中学生がしっかりと問題を解くことができるのかという気がしたが、そのような問題を解くことができる学力が定着するように、小・中・高としっかりと対策をしていただきたい。

(原之園委員) 数学だけは目安点未満の人数が昨年度と比較すると、少なくなっているが、国語、社会、英語については、目安点未満の人数が増加している。そのような状況で、今回の試験では小学校レベルの出題もあるということであれば、小学校での授業改善について、県としてどのような指導をされているのか。また、小学校での高校入試に向けた学習指導の在り方はどのようになされているのか。

(高校教育課指導監) 目安点部分については、小学校段階からという話であったが、高校教育課の立場としては、高等学校が実施する、公開授業や研究授業等の際に行われる小学校、中学校、高等学校合同の教科研究会等で、学力検査問題を素材に、また、今回の資料を用いながら、小学校及び中学校との情報交換や指導法等に関する意見交換を行うなどの指導も進めており、今後一層それらの指導を深めてまいりたい。さらに、今回お配りしている冊子を教育事務所にも送付するので、教育事務所の小・中学校の管理職の研修会や小・中学校の学力担当者に今回の資料を活用してもらい、指導を深めてもらいたい。

(義務教育課長) 今回の高校入学選抜学力検査については、小・中学校の学力問題がこの結果に現れていることを重く受け止めている。今回の検査では、全国学力学習状況調査のB問題のような問題が多く出ているので、そのような問題にしっかりと対応しなければいけないということが、今まで浸透していなかったように思う。4月に中学校3年生が学力調査を受けて、B問題を解けなかったら、卒業までにしっかりと繰り返し同じような問題をやって、解けるようにすることが、今までできていたのかということは、改めて今回の結果を受け止めて、各市町村教育委員会等に指導していきたい。

(堀江委員) 1点目は英語について。平均点が上がっているにもかかわらず、目安点未満の人数の割合が各教科の中で一番多い11.6%という点は、英語嫌いで、英語を学習する意欲がない子供達が多いために、他の教科に比べて目安点に満たないか生徒が多いということかどうか。2点目は、小学校で2020年度から英語が教科になり、大学入試でもスピーキングテストを実施することに対して、今後検討していただきたいこととして、スピーキングテストを高校入試で取り入れるための検討会を作っていただけないかということである。東京都は2021年度から中学校英語スピーキングテストを開始して、テスト結果を都立高校入試で活用するというのをすでに発表している。検討会で審議をされて活用することになっていると思うので、子供達に使える英語とか、話せる英語とか、そういうところでもう少し英語に対して魅力を感じてもらい、子供達が勉強する気になると目安点未満の子供たちが減るのではないかと思う。そういうことも含めて、検討していただければと思う。

(高校教育課長) 英語の目安点とスピーキングについての質問だが、英語については昨年度から記述量を増やしているので、目安点未満の人数の割合が増加しているのではないか。スピーキングについては英語の基本技能ということで、授業改善を中学校、高校でも行っているが、学習結果の評価ということと、公平性を確保しなければならない学力検査の中で、スピーキングをどのように実施するかということについては、色々と検討することがあると思う。

(堀江委員) 英語の試験について記述を入れていて、いわゆる話すところの

部分を書く形でやられているという工夫はよく分かるが、やはりそれは書くことのテストであり、話すことのテストをしなければならぬと思うので、そのことも踏まえて、公平性や様々な問題はあるが、そこを検討していただく時期なのではないかと思う。

(高校教育課長) 東京都も実施に向けて検討しているということなので、今後、研究していきたいと思う。

(4) 平成31年度全国高等学校総合体育大会大会名称の読み替えについて

(高校総体推進室長) 平成31年度全国高等学校総合体育大会大会名称の読み替えについて説明

6 議案

議案第2号 鹿児島県立図書館協議会委員の任命について

(非公開)

7 閉会